

# 白雲片片

## 第六回

### 丙丁童子来求火

今回は法眼文益禪師とその法嗣の報恩玄則禪師が登場する古則を紹介します。本文がやや長いので、お二人の詳細は割愛します。

#### 正法眼藏三百則 第二百二十二則

『玄則禪師、法眼の会中に在りしに、一日、眼云く、你、此間に在りて多少の時ぞ。師云く、和尚の会に在りて已に三年を得たり。眼云く、你是れ後生なり、

尋常に何ぞ事を問わざる。師云く、某甲、敢えて和尚を瞞かず。某甲、曾て青峰の処に在りしとき、箇の安樂を得たり。眼云く、你、甚なる語に因りてか入ることを得し。師云く、曾て青峰に問いき、如何ならんか是れ学人の自己なると。峰云く、丙丁童子来求火と。眼云く、好き語なり、祇だ恐らくは、你、会せざらんことを。師曰く、丙丁は火に属す、火を將つて火を求む、自己を將つて自己を覓むるに似たり。眼云く、情に知りぬ、你、会せざりけり。仏法若し是の如くならば今日に到らじ。師乃ち燥悶し

て便ち起ちぬ。中路に至りて卻た云う、他は是れ五百人の善知識なり、我が是ならざるを道う、必ず長処有らん。卻回して懺悔して便ち問う、如何ならんか是れ学人の自己なる。眼云く、丙丁童子来求火。師、言下に大悟す。』

現代語訳／（文は文益禪師、玄は玄則禪師）。玄則禪師が文益禪師のお寺にいたある日のことです。

文「お前は、この寺に来てからどのぐらい経つのか。」

玄「和尚さんのお寺に来てからもう三年経ちました。」

文「お前は私の後輩だ、それなのになぜ普段から私に仏道について質問をしないのか。」

玄「私は和尚さんを騙すわけにはいきません、私は青峰禪師（白兆志圓禪師）のところのいた時に、具体的な安樂の境地を得ました。」

玄則禪師は、自分は青峰禪師のところ  
で悟ったから、もうあなたに質問する  
必要がないんだと答えたのです。

文「お前は青峰禪師のどんな言葉で釈尊  
と同じ境地に入ったのか。」

玄「私がかつて青峰禪師に、一所懸命に  
仏法を学んでいる自分は一体何でし  
ようかと尋ね、青峰禪師は『火の兄  
弟(丙丁)が火を求めてやってきた』  
と答え、私はこの言葉によって悟り  
ました。」

丙も丁も十干のうちの一つで、丙(ひ  
のえ)は火の兄、丁(ひのと)は火の弟  
を意味し、ここでは本来仏である者が仏  
を求めているという表現を暗示してい  
ます。玄則禪師は、青峰禪師の言葉を聞  
いて、自分はもう仏であると理解し、そ  
れに気付いたら仏道修行は終わりなん  
だと解釈していたということなのです。

文「それはとても良い言葉だ。ただ心配  
なんだが、お前はその意味が分かっ  
ていないのではないかと思う。」

玄「丙も丁も火に關係があります。火が  
火を求めに来た、自分自身はそのま  
までいいのに、さらに自分自身を求  
めているようなものです、私はちや  
んと分かっています。」

文「なるほど、やっぱりお前は分かって  
いない。仏法がもし、そういうもの  
だったら今日まで伝わっていないだ  
ろう。」

玄則禪師は自信を持っていました。そ  
れなのに自分を認めてくれない文益禪  
師に腹を立て、すぐにその場を去りまし  
た。ところが途中まで来た時に、ふと冷  
静になって思いました。

玄「文益禪師は五百人の大衆を指導して  
いる徳の高い僧侶だ。私のことを間  
違っていると言ったが、何か優れた  
ものがあるに違いない。」

そう思うと、玄則禪師は踵を返して文  
益禪師の所に戻り、先ほどの無礼を謝り、  
すぐに質問をしました。

玄「仏法を学びたいと思ひ、一所懸命や  
つている自分は一体何でしょうか。」  
文「本来、火である兄弟が火を求めてや  
つて来た。」

その言葉を聞いた玄則禪師は即座に、  
自分が「丙丁童子来求火」という言葉を  
頭で理解していただけたことに気が  
付き、仏道とは、理論を頭で理解する

ことで終わるのではなく、虚飾を身につ  
けて満足するものでもなく、真面目に実  
行しなければ全く意味を成さないとい  
うことを完全に悟りました。

玄則禪師の優れていたところは、一度  
は腹を立ててしまったのにも関わらず、  
自分の慢心と軽率な行動の非を認め、謝  
して再び教えを請うたところにあるま  
す。これは誰しもが経験のあることだと  
思いますが、自分が間違っていると気が  
ついた時、いまさら言いにくいという気  
持ちは邪魔してこちらから謝るとい  
うことはなかなか実行できることではあ  
りません。

学人にまず必要なのは聡明さや優れ  
た感性ではなく、仏法とは何なのかを真  
面目に追求する求道心であり、例えばく  
ら賢くセンスが良くても、真面目なやる  
気(菩提心)を失ってしまつては仏法へ  
の理解が進まないということがこの古  
則から読み取れます。／参考文献・西嶋  
和夫著「真字正法眼蔵中巻一」、駒澤大  
学編「禅学大辞典」

げんさしび  
玄沙師備

らかんけいちん  
羅漢桂琛

ほうげんもんえき  
法眼文益

ほうおんげんそく  
報恩玄則